

石橋 博

D：福島県会津東山温泉コース

かつて、作家の司馬遼太郎をして～街道をゆく～のなかで、都市ひとつがこんな目に遭ったのは会津若松しかないと言わしめ、また、東日本大震災の原発による風評被害に今なお苦しみながらも、豊かな自然の中に温かい人情が息づく歴史とロマンの街その会津を立命館の校友たちとともに訪ねました。

「安全」とは科学的な事実、「安心」とは感情的なもの、「安全」であるものを「安心」できない原因は人間の無知に起因するなどと言われますが、ツアー1日目は小春日和で秋たけなわの田園地帯を巡り、りんご園ではもぎたてのフルーティーなりんごに舌鼓を打ち、会津活・活自然村では具だくさんの汁や新米でついたばかりのお餅をたくさん美味しくいただきました。地元農家の皆さんの明るい気さくな表情は、風評被害の現実が徐々にではあるが過去のものとなりつつあることを感じさせてくれるものでした。

ホテル到着後の勉強会では、被災地で学んだことについての意見交換ということでしたが時間の関係もあったのですが、福島県校友会の皆さんともっと車座にでもなって率直な会話のやりとりに時間を費やすべきだったと思いました。今回のツアーのある意味メインと考えていただけに折角の機会を活かすきれてなくて残念という印象でした。その後は、交流会という名の懇親会に入ってしまう、校友会のいつものお決まりのパターンとなってしまいました。

ツアー2日目は、かつての会津戊辰戦争や白虎隊の悲劇と震災の風評被害とを、どうしても重ねて考えてしまうものとなりましたが、鶴ヶ城の気品ある美しさを目の当たりにして、会津に生きる人たちの誇りとか粋とか明日への希望を感じとることができた気がいたしました。

ツアーを通じ、会津地方の空気を思いきり吸いながらその歴史や文化に思いを馳せ、近いうちまたぜひ来てみたいと思えたことは収穫でした。また、会津人桑原会長にご挨拶させていただく機会があり fb を通してもお友達とさせていただくことができましたことなど、参加された校友さんたちと楽しく過ごすこともでき、実りある有意義な会津2日間の旅となりました。